

調査方針に対するご意見と対応について

1. 調査全体に関するご意見

	ご意見	対応
1	・将来像を検討するにあたり、自転車を交通計画の視点でどのように位置づけるのかが、これから重要になる。 ・特にシェアサイクルは公共的な利用の側面が強くなってきており、これまでのマストランジットを中心とした公共交通からの発展的な視点の一つとなる。 ・現状の課題を改善する方法のみならず、市民自身の日常生活に関する発想の転換やパラダイムシフトが促されることで、従来の慣習にとらわれず、かつ実現可能性の高い提案がなされることを期待。	・自転車は今後減便が進む中での、特に通勤通学世代のラストワンマイルを支える重要な個人モビリティとなる。 ・シェアサイクルは、路線バスの減便などにより終発時間が早くなる際などは有効な交通手段であると考えている。
2	・将来像を見据えたバックカスティング的な手法により、ステークホルダーの意見収集、意識合わせができれば良い	・市民アンケート調査、ワークショップに加え、事業者へのヒアリング等も実施することでそれぞれのステークホルダーの状況や課題を踏まえて将来を見据えて検討を行う。
3	・【生活像】平休別にも調査	・平日休日及び時間帯別(朝・昼)による移動特性の差は大きいと思われるため、項目によっては分けて整理を行う。
4	・地域公共交通環境を把握する際には、正確な実績数を把握する(現状の交通網の枝・葉を把握するための実績数は、シルバーパス利用者もしっかり把握すること)	・既存データで不足のある実績数に関しては、事業者へのヒアリング等にて把握を予定。シルバーパス利用者については、バス利用者アンケート調査により傾向を把握する(正確な実績数の把握は不可能)。

2. 現況整理に関するご意見

	ご意見	対応
5	・各バス停(あるいはバス停間)の時間帯ごとの乗降客数と、その属性(年齢、性別等)→事業者のデータ	・くるりんバスについては、運行事業者から提供される月次報告により利用実績(OD等)を把握。路線バスについては、提供可能データについて交通事業者にヒアリング予定。
6	・タクシーの稼働が多い地区と、利用頻度の多い区間→事業者のデータ、ビッグデータ等	・タクシー事業者ヒアリングにて所感ベースで把握する。
7	・シェアサイクルは現状限定的な運用だが、今後広がっていく見込みはあるのか。	・シェアサイクル事業者へのヒアリングにて今後の見込みについて把握する。
8	・シェアサイクルは民間主導で事業が展開されていく一方で、立川市は行政側としてどのような関わりを持つことが想定されているのか。	・自転車活用推進計画で検討中であるため、方針が決まり次第情報提供する。
9	・行政の核計画において地域分析がされていると思われるので、その情報や根拠も参考にして圏域の状況把握や将来像の作成をされると良いのではないかと思います。	・上位計画(長期総合計画、都市マスタープラン 等)の整理を通して、将来像や圏域の考え方は整理する。
10	将来予測について ①各地区(丁目単位)の年齢構成 ②バス事業者、タクシー事業者の運転手不足数と採用予定数 ③運転免許証を返納する予定 ④各地区のシルバーパス所持者数→潜在的利用者を把握 ⑤各地区の移動に困難を抱える方の人数(身体障害者手帳所持者等)→潜在的利用者を把握	・①は現況整理の中で推計も含め整理している。 ・②はバス事業者ヒアリングにて把握する。 ・③は市民アンケート、④はアンケート調査に加えバス利用者アンケート調査にて把握する。 ・⑤は福祉関連ヒアリングにて把握する。

2. 現況整理に関するご意見

	ご意見	対応
11	・少なくとも10年後、あるいは20年後の立川市（その町々）の世代別の人口構成予測が欲しい。	・将来推計結果を基に整理している。
12	・同時に財政予測とコミュニティ交通（現行はくるりんバス）にかけられる金額も知りたい。	・令和6年度コミュニティバス運行予算は85,564千円。予算の上限見込みを決めて交通施策を考えるのか、必要な交通施策を考えてから、予算の確保できる範囲で施策を実行するかは令和7年度以降の検討となると考えている。
13	・乗車人数と収支率、運行経費以外にクロスセクター効果等も考慮したい。	・くるりんバスの乗車人数、収支率、運行経費は提供情報で整理。路線バスの乗車人数は把握できるが、路線バスの収支率と運行経費は路線ごとの把握は困難。事業者ヒアリングの中で対応。クロスセクター効果は他市の例を踏まえて今後検討する。
14	・ジャパントクシー（ユニバーサルデザインタクシー）がリフトタクシー（福祉タクシー・車いすタクシー）不足の代用として活躍しているが、実際の利用数（車いすユーザー）またジャパントクシーの導入の比率などを明らかにしてほしい。	・タクシー事業者ヒアリングにて把握する。
15	・公共交通事業者の接遇研修（障害者・高齢者など）の開講状況の実際について知りたい。	・交通事業者や福祉関係者へのヒアリングにて把握する。

3. 市民アンケートに関するご意見

	ご意見	対応
16	・市民のシェアサイクルに対する意識(認識度、理解度、需要度など)を確認	・移動手段の選択肢として、シェアサイクルを自転車と別に設置し、移動実態等については把握。 ・意識については、事業者へのヒアリングで把握。 ・また、あわせて自転車推進計画の方向性を確認する。
17	・前段として、路線バス事業者の取り巻く環境の変化について説明してほしい。(例:どこかを増便するのであればどこかを減便しなくてはならない、等々) ・コミュニティバスについても民間バス事業者に委託するなら同様の状況であること(コミュニティバス受託運行を終了する事業者もあり、赤字補填のみのコミュニティバス受託がもはや負担に…) ・自治体主体のアンケートは希望要望が強めになる傾向があるため上記お願いしたい。	・アンケート調査に、立川市の公共交通の状況について資料を同封し、目を通していただいたうえで回答いただく形とする。※設問回答の誘導とならないよう、設問票とは切り分けた形で掲載予定。
18	・バス停留所は地先、道路管理者や所轄警察署の許可の元設置しており、「近くに欲しい」や「どかしてほしい」等々の意見への対応は非常に困難なことを理解してほしい。(「危険バス停」問題でも手を焼いている)	・単純にサービスレベルの改善だけを望むような選択肢は設けず、重要視している事項という形で把握予定。

3. 市民アンケートに関するご意見

	ご意見	対応
19	・これまで各民営バス事業者は、国が各エリアの独占を認める代わりに、一部の黒字系統の収益を赤字系統の維持に充てる「内部補助」方式でエリアの交通網を維持してきたが、2002年の規制緩和によって否定された。にもかかわらず事業者の「企業努力」でこれまで交通網を維持してきたこと、そして2006年の道路運送法改正によって今は地域公共交通の主体は地元自治体に委ねられていることについても、前提として多くの市民にご理解いただけるとありがたい。	・17と同様
20	・毎年、タクシーの日(8月5日)前後で、利用者の利用状況・利用動向の把握、満足度と評価の把握これからのタクシーへの要望の把握のため、(一社)東京ハイヤー・タクシー協会で、利用者へアンケート調査を実施し結果を公開をしている。 ・結果は、東京都特別区・武三交通圏の、北・南・西多摩交通圏(三多摩地区)と全体に分けて整理している。多摩地区の傾向は読み取れると思う。参考になると思う。 https://www.taxi-tokyo.or.jp/datalibrary/index.html ・(設問の一部:1か月の利用回数、利用時間帯、利用目的、利用の乗車方法、平均利用額など	・利用者アンケート調査の結果を参考にさせていただく。
21	・【生活像】公共交通利用で移動障害となっている項目:料金、移動時間、乗り換え時間(何から何)、本数、混雑度、ルート検索のし難さ、その他	・移動に関するお困りごとの項目にて把握予定。
22	・【将来予測】免許返納率の動向、免許返納予定の考え(何歳になったらやめる予定等)、シェアカー・シェアサイクルの利用動向	・免許返納意向は把握する。 ・シェアサイクルの利用動向については、事業者へのヒアリング等を通じて実態把握を行う。

3. 市民アンケートに関するご意見

	ご意見	対応
23	・市全体の移動実態を把握するため、買い物や通院などの外出目的別に頻度・交通手段・移動先を聞くような項目を検討してはどうか	・最も頻度の高い移動から3番目に頻度の高い移動について、目的や交通手段、頻度等について伺う。
24	・コミュニティバスの利用者に対してもアンケートがとれるのであれば、アンケート調査を検討してはどうか	・コミュニティバス(くるりんバス)の認知度・満足度について把握する。利用実績(OD等)は運行事業者からの月次報告により把握する。
25	・(1)最寄りの公共交通までの距離:何km、何分までが徒歩圏内なのか。どこからが不便と感じるのか。地域の交通に不満がある市民が何処にどれだけいるのかを把握する必要がある。	・最寄りではなく最もよく使う駅・バス停までの距離を属性として伺い、満足度等とのクロスにより、利用圏域における満足度やお困りごとの差を把握する。
26	・(2)現行路線における定時性、便数の満足度:どういふところが満足するポイントか、不満となる要因なのか。長大路線となれば、定時制を損なう可能性が高くなるため、余裕をもったダイヤと渋滞対策が必要となる。	・満足度については総合満足度という形で伺うが、各項目(定時性、運行時間帯、頻度 等)については重要度を回答いただく形で優先順位を把握する。
27	・ラストワンマイルの移動手段として自身が利用している(したいと思う)ものを調査(その理由を把握し、新たな手段のヒントとする)	・普段の移動で使うことの多い移動手段を実際の移動状況に合わせて把握する。
28	・属性として、年齢や身体の状態を入れる(生活圏域ごとの移動目的や移動手段の分析では、年齢や身体の状態も考慮。身体状況として、高齢者であれば移動可能な筋力や体力の有無、障害者であれば解除の度合いなど)	・属性は年齢や性別に加え、免許保有状況や自家用車・自転車所有状況、送迎状況等、移動の制約となりうる項目を把握する。

3. 市民アンケートに関するご意見

	ご意見	対応
29	・将来予測用の情報として、「今の居所に住み続けるか」を確認	・個人的情報の将来意向は不確定要素が高く、また個人情報にもつながることからアンケートでは把握困難。 ・将来の見込みについては、人口推計と世代別、社会増減で把握する。
30	・①移動像 鉄道、路線バス、タクシー、自家用車、自転車、シェアサイクル等の週利用頻度と、その用途(通勤、通学、買い物等)	・利用頻度については交通手段別で把握。 ・その他の交通手段は、最も高い頻度から3番目に高い頻度の移動、目的や交通手段と合わせて把握する。
31	・「地域内の日常生活で毎週のように訪れる場所」への移動手段	・23と同様
32	・「基幹交通」以降の移動手段	・「基幹交通」という表現は一般市民の方の認識に差が出る可能性があるため用いないが、具体の移動について、鉄軌道から個人モビリティ・徒歩まで含めた交通手段を把握する。
33	②生活像 ・「地域内の日常生活で毎週のように訪れる場所」の・具体的な店舗名と、その訪問時間帯	・31と同様
34	・日常生活で訪れる上で不便を感じている場所	・公共交通に関するお困りごとを伺い、居住地等の属性データをクロスして不便理由を分析することを想定する。
35	④①～③全体に関連 ・回答者の属性(居住地区、年齢層、職業等)	・28と同様
36	・立川駅への交通手段【枝】	・立川駅を最も利用する方については把握する。
37	・バスの利用状況【バスやタクシーの必要性】	・バスの利用頻度を把握する。

3. 市民アンケートに関するご意見

	ご意見	対応
38	・バスの不利用理由(金額が高い・バス停が遠い・本数が少ない・バス停が使いにくい・使う必要が無い) 【バスやタクシーの必要性】【バス利用者増の可能性】	・26と同様
39	・デマンド型交通(予約制乗合タクシー)の利用意向 【市民の期待度】	・新たな交通手段の導入検討については、調査により地域の移動実態等を把握したうえで検討するものと考えているため、市民アンケートにおいては具体的な交通手段を示した形での利用意向は把握しない。
40	・オンデマンドバス(時刻表や決まった運行経路がない予約型の乗合バス)の利用意向【市民の期待度】	・39と同様
41	・現状の把握だけでなく気づきを得るためのアイデア等も引き出せるような課題解決提案型調査項目を設けてほしい。例)現状を補う交通手段、便利に活用できる制度提案 等	・必要に応じて自由意見から把握。また、課題解決、提案型は、市民ワークショップで依頼する。
42	・調査対象に偏りが無いよう工夫 例)年齢層、地域人口密度、回答の容易さ、回答率統計的補正	・2系統調査(生産年齢人口、高齢人口)を行う。 ・それぞれにおいて地域別年齢別の偏りが生まれないように配慮した調査を行う。
43	・具体的に設問を決めていく中で議論	・委員数が多いため、アンケートの設問へのご意見を予めいただき設問を作成しております。また、事前に案を配布し、委員からご意見をいただいた上で、第2回協議会で報告・協議いただきます。
44	・移動したいのに出来ない人(高齢化・障害等で)への目配りが無い。	・現状の移動を把握する移動実態では別に、外出率(在宅率)や移動でのお困りごと等も把握 ・また、障害者等の意向は福祉関係者へのヒアリングを通して把握を予定。

4. ヒアリングに関するご意見

	ご意見	対応
45	・地域の公共交通の維持・活性化に必要な「財源」に関して、福祉や商業などのクロスセクター的な観点から意見を調査し、公費負担の合意形成・理解促進に向けた議論をしたい。	・12と同様
46	・絶対的に公共交通と徒歩でしか移動手段がない障害者・高齢者に対し、満足度や困っていること、問題点(改善点)などを聴き取り、自転車や自動車に頼れない高いニーズのあるヒアリングをとってほしい。	・44と同様